

洛中いぬ道楽 ～京都で犬と暮らす～

玉葱 ぼん 著

京都生まれ京都育ちの筆者が、一戸建てを購入したのをきっかけに、旦那さんの小さい頃からの夢である「犬」を飼い始めたことから話しは始まります。単なる犬の飼育日記ではなく、「ぶぶ漬け」に代表されるような一筋縄では行かない古都京都で、犬を通して繰り広げられるご近所との人情悲喜劇や四季折々の下町風情。本書は全てはんなり語の京都弁で綴られており、関西人の私は、細かな情景を想像しながら楽しく読めました。あくまでも愛犬が書いた本のため偏りはあると思います。しかし、本当に犬たちを家族と思い、本気で怒り、褒め、喜び、体当たり・・・心を持った付き合いをしている著者には共感が持てました。と、同時に私は、今まで飼っていた犬と本気で付き合い合ってきたのか考えてみました。17年の人生、いえ、犬生を全うした太楼とは、短足犬デイディエとは・・・きちんと躰が出来ていないところを考えると、恥ずかしい限り。犬との付き合いもこの程度であるならば、人間相手の付き合いも言わずもがな。ヒトの言葉は心に届くはずもなく通り過ぎ、キモチは置き去り、本当の言葉はどこへやら、上辺だけのお付き合い。軽い気持ちで読み始めた本書でしたが、読後、何やらスッキリしなかったのは、このためだったのか、と今更ながらに気付きました。

Y・C



幻冬舎ルネッサンス

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞